



メタルドウ社長

山頼敏彦氏

貿易摩擦懸念、下値は1.2万ドル

ニッケル

ニッケルのロンドン金属取引所（LME）相場はトン1万2000—1万4000ポンドの推移が予想される。

昨年7—9月に値を伸ばして1万2000ポンドに到達し、その後は上下しながらも、今年1月に2年半ぶりの1万3000ポンドに達した。ステンレスの堅調に加えて、新規需要のリチウムイオン電池への期待があり、世界需給観測でも今年は不足が続くという見方が多い。相場の重しになっていたLME在庫が、年明けから減少スピードがやや早まったことも、相場上昇を後押ししたようだ。

一方、1万2000—1万3000ポンドが採算ラインといわれる中国のニッケル銑鉄（NPI）増産が予想される。環境規制によって生産が抑制されているとはいえ、1万4000ポンドを大きく上回る展開は考えにくい。ここに至って米国の鉄鋼関税政策による貿易摩擦の懸念で、LME相場も軟化しており、下値も1万2000ポンドまで想定せざるを得なくなっている。